

さいたま

平成24年度 美江賞発表号



芍薬

花とく(11)と

願法みつる

東日本復興支援ソング「花は咲く」が、BGMの様に流れている。しかし復興という事業の具象部分には様々な利害が絡んで、仲々捗らないのが現実の様だ。

ここで歌われる花は、決して温室栽培のそれではなく、自然界で逞しく生きて行く四季折々の花でなければならぬ。冬の寒さや夏の暑さに耐えながら地中に伏し、太陽の温みを感じて成長し、子孫繁栄を務めに咲く花である。しかし二年以上を経て未だ花園は見えていない。華のような小さな善意の花は其処此処に顔を見せるものの、広域な町の機能が甦るような桜並木や一面のコスモス畑が見られるのは、一体いつになるのだろう。

戦後、町の再建はトタン葺き屋根の家々からだったという。だがいつ同じ災害が発生するかも知れない海辺の地であつては、例えばの宿であつても建て難い。放射能汚染の地であつては、敢えて身を滅ぼしに行くようなものである。否、それでも敢えてやりたいと言え、行政規制で押し留められる。海辺で生きて来た人々に山地へ入れとも言えず、牧草台地で生きて来た人々に高層住宅で住めとも言えない。抜本的な国土造りが必要である。

花は耐えて頑張るから咲ける。国民の心がひとつになれば、オリンピック招致が成功して、東京に五輪の花が咲く頃には、被災地にも本当の「花が咲く」ことだろう。そして福島にも安全な空が戻って来るだろう。

五月号 目次

堅太郎句抄(十七)	表紙	2
巻頭言 花ということ	願法みつる	1
彩玉集―同人吟		2
平成二十四年度美江賞発表		6
古丘の世界	文・今村 寿子	15
雑詠	願法みつる選	16
七七句	松田重信選	24
交替鑑賞 四苦八苦	亀井三千生	28
初歩添削講座「こころ」雑詠	加藤孤太郎	30
題詠 「責任」 岡田 時雄 選		34
「疎遠」 千葉 古丘 選		
「手頃」 小高 啓司 選		
さいたま四月句会		
インフォメーション		
第49回さいたま川柳大会ご案内	表紙	36
句会案内	表紙	3
表紙(題字・清水 美江 写真・千葉 古丘)	表紙	4

平成25年

5 月号 (No.642)

日川協加盟